

横浜市感染症発生動向調査報告 5月

《今月のトピックス》

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が増加しています。
- 咽頭結膜熱の報告数が増加傾向にあります。
- 手足口病の報告数が増加傾向にあります。

◇ 全数把握の対象

〈5月期に報告された全数把握疾患〉

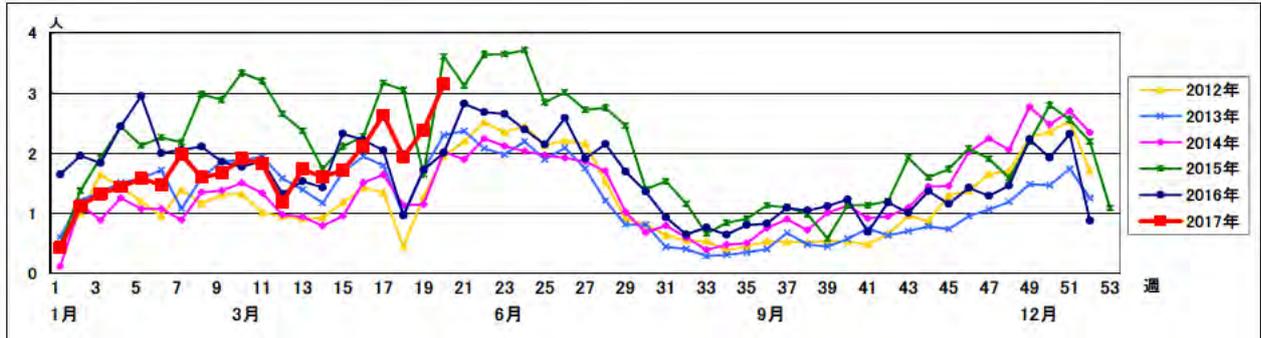
腸管出血性大腸菌感染症	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
A型肝炎	3件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	5件
レジオネラ症	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
アメーバ赤痢	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	16件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件	水痘(入院例に限る)	2件
急性脳炎	4件	梅毒	5件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O26の報告が2件の報告がありました。1件はベトナムでの感染が推定され、1件は感染地域等不明です。
- 2 A型肝炎: 3件の報告があり、うち2件は国内での経口感染と推定され、1件は感染経路等不明です。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型の報告が1件、無症状病原体保有者が1件ありました。感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 2件の腸管アメーバ症の報告がありました。感染経路はいずれも国内で、1件は経口感染、1件は感染経路等不明でした。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 2件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 6 急性脳炎: インフルエンザウイルスB型疑いの報告が1件、ロタウイルスによる報告が1件、病原体不明の報告が2件ありました。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: G群の報告が1件ありました。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSの報告が1件(同性間性的接触)、無症状病原体保有者の報告が4件(異性間性的接触が3件(国内1件、韓国1件、インドネシア1件)、感染経路等不明が1件)ありました。5件とも男性でした。
- 9 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 70歳代の報告が1件(ワクチン接種歴は不明)、小児の報告が1件(ワクチン接種歴1回あり)ありました。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症: 16件の報告があり、うち5件の小児で、うち4件についてはワクチン接種歴が確認されましたが、1件の乳児はワクチン接種歴なしでした。11件(30~80歳代)については1件のみワクチン接種歴が確認されましたが、4件はワクチン接種歴がなく、6件はワクチン接種歴が不明でした。
- 11 水痘(入院例に限る): 40歳代の臨床診断例の報告が1件、小児の検査診断例が1件ありました。ワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 12 梅毒: 5件の報告(早期顕症梅毒Ⅰ期2件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件)がありました。いずれも男性で、国内での感染が推定されます。感染経路はいずれも性的接触で、異性間の性的接触が4件、詳細不明の性的接触が1件でした。

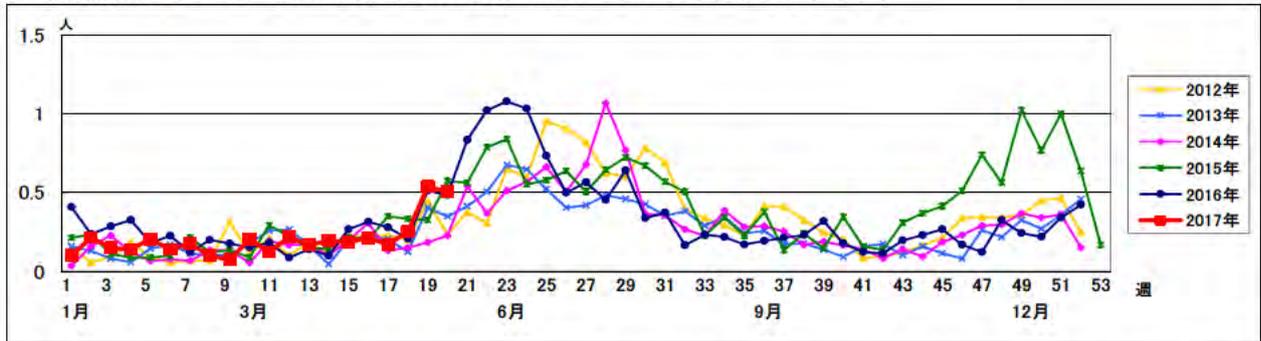
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第17週	4月24日～4月30日
第18週	5月1日～5月7日
第19週	5月8日～5月14日
第20週	5月15日～5月21日

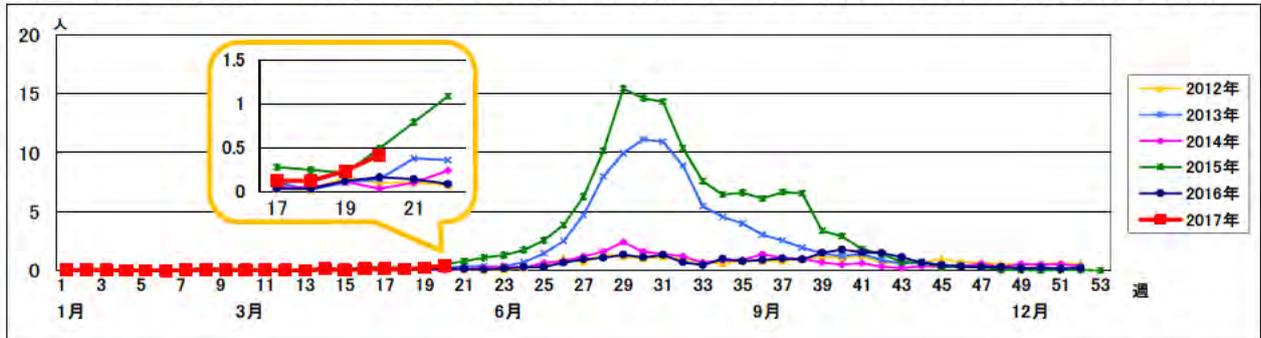
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 第19週で定点あたり2.39、第20週で3.15と増加傾向です。



2 咽頭結膜熱: 第19週で定点あたり0.54、第20週にて0.51と増加傾向です。



3 手足口病: 定点あたり0.1前後で推移していましたが、第19週で0.24、第20週で0.42と増加傾向です。



4 性感染症(4月)

性器クラミジア感染症	男性:26件	女性:17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:6件	女性:6件
尖圭コンジローマ	男性:8件	女性:3件	淋菌感染症	男性:7件	女性:1件

5 基幹定点週報

	第17週	第18週	第19週	第20週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.33	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.25	0.33	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	1.00	0.25	0.67	0.00

6 基幹定点月報(4月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件		—

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

5月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点43件、内科定点15件、眼科定点2件、基幹定点10件で、定点外医療機関からは2件でした。

6月9日現在、表に示した各種ウイルスの分離株17例と遺伝子25例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(5月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	R S 感 染 症	ア デ ノ 感 染 症 *2	胃 腸 炎	流 行 性 耳 下 腺 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	危 急 事 態 疑 い 乳 幼 児 突 発 性
アデノ 1型	1								
アデノ 型未同定	1				1				
インフルエンザ AH3型N2			3						
インフルエンザ B型山形系統	1	1	7						
パラインフルエンザ 3型	1	1							
ムンプス							1	1	
ヒトボカ		3							
ヒトメタニューモ	4	4	1	1					
RS				1					
ライノ		1	2						1
コクサッキー A9型		1							
ヒトコロナ OC43型	1								
ノロ						1			
サポ						1			
アストロ						1			
合計	3 6	1 10	10 3	2	1	3	1	1	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:咽頭結膜熱を含む

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

5月の「感染性胃腸炎」は小児科定点から3件、基幹定点から腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT1&2)と *Salmonella* Schwarzengrundの2件、定点以外の医療機関からは腸管出血性大腸菌(O26:H11,VT1)2件と *Salmonella* Choleraesuisの3件でした。

「その他の感染症」は小児科定点から4件、基幹定点から5件、定点以外の医療機関からが5件でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(5月)

感染性胃腸炎						
検査年月 定点の区別 件数	5月			2017年1月～5月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌						1
腸管出血性大腸菌		1	2		3	6
腸管凝集性大腸菌					4	
チフス菌					1	
サルモネラ属菌		1	1		5	3
不検出	3	0	0	4	9	1
その他の感染症						
検査年月 定点の区別 件数	5月			2017年1月～5月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1	1		6		
	T4			3		
	T6	2		3		
	T12	1		1		
	T B3264			1		
	型別不能			1		
B群溶血性レンサ球菌						3
G群溶血性レンサ球菌		1			2	2
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						2
バンコマイシン耐性腸球菌						4
レジオネラ属菌						3
インフルエンザ菌			2	1		3
肺炎球菌		1	3		4	9
結核菌					20	44
百日咳菌					2	
緑膿菌		1			1	
その他		2			44	15
不検出	0	0	0	1	2	5

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】